

【1学年のまとめ】

1、学年の取組

学年の児童は、明るく穏やかな児童が多い。友達が困っていると自然と手伝う姿や声を掛けて助け合える優しさもある。友達のよさに気づき、クラス全体で認められる場面も多く見られる。しかし、自分の得意なことや好きなことに対しては肯定的に捉えることが出来るが、自分の内面へ視点移すと肯定的に捉える割合が減少する傾向が見られる。また、自分の「いいところ」という捉え方がどのようなものなのか分からない児童もいる。そこで、今回の授業研究では、「A個性の伸長」の価値項目を取り上げ、友達との関わりを通して、自分では気付かなかった自分の「いいところ」に気づき実感できるように取り組み、自分の特徴に気付こうとする心情を育むことをねらいとした。

本時では、教材文を自分事としてとらえることが出来る様に、話し合いと体験的な活動を組み合わせた学習を展開した。そのために、学年では、日頃から、ロールプレイを意図的に取り入れ、授業に取り組むようにしてきた。また、「自分のよいところ」＝長所に気付かせることを、「人との関わり」の中から気付かせるように配慮するために、日常指導として、帰りの会、他教科の授業の中で友達のよさを見つけて発表する機会を多く意図的に設定してきた。そして、本時は、それを参考にしたり、話し合ったりすることを通して、自分の良いところの掲示物を作成する活動を本時の終末に設けた。それによって、自分の良いところを客観的に知ることにより、自分では気付かなかった自分のよさを聞き、自分のよさに気づき、他者のよさも認められる工夫ができた。

学年で授業について検討を重ね、まず1組では、1組担任が先行授業を行い、授業者は客観的に、発問に対する児童の反応、授業の流れを把握し、3組の授業で授業者による先行授業を行った。これによって、授業者は発問の精査、時間配分などができ、各学級担任は、児童の様子や変容を見取ることができた。

2 授業実践について

主題	自分のよさ	内容項目	【個性の伸長 A として自分自身に関すること】
本時のねらい	ロールプレイなどを通して主人公に自分を重ねて、心情について話し合い、主人公と同様に友達との関わりを通して、自分では気付かなかった自分の「いいところ」に気づき実感できるように取り組み、自分の特徴に気付こうとする心情を育む。		
教材名	ええところ (出典 くすのきしげのり「ええところ」学研教育出版・2012年)		
授業者	2年2組 林 美和子		



【授業の流れ】

- ①自分の「いいところ」について考えた事前の活動を想起して、同じ体験をしている主人公に目を向けさせる。
- ②「ええところ」が一つもないと思っていた自分に「手があたたかい」というよさを見つけてもらった場面を話し合う。
- ③ロールプレイで体験をしながら「あたたかくない。というか、つめたいねん。」と言われてしまった場面を話し合う。
- ④ロールプレイで体験をしながら「みんなにやさしいのが、あいちゃんのええところや。」と言われた場面を話し合う。
- ⑤体験的活動として、主人公と同様の場面（ペアになって、お互いに友達の「ええところ」を伝え合う場面）を設定し自分の「ええところ」を知る。
- ⑥友達が見つけてくれた「ええところ」を基に、自分の「ええところ」を考え、課題に対する自分なりの考えを持つ。
- ⑦授業を振り返り、自分の「ええところ」を書く。

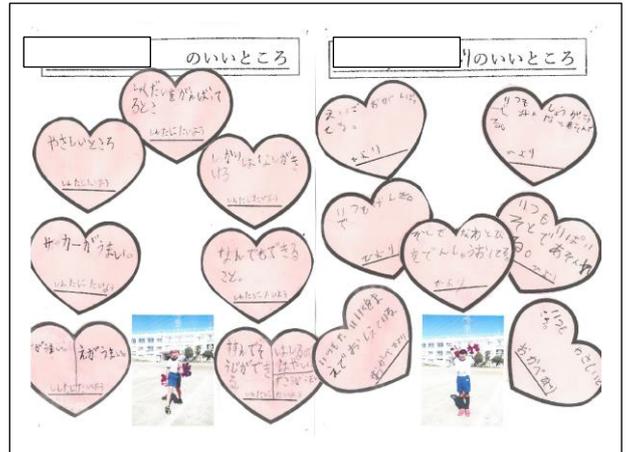
終末で、体験活動として「ええところ」を伝え合う活動を取り入れ、客観的な自分のいいところを知ることによって、ねらいとする道徳的価値についての自覚を深めさせた。また、本時が終わった後も、書いたものを掲示し、いつでも見られるようにし、カードにいいところを書き、はりためていく機会を設けた。帰りの会などに友達のよいところを見つけて意欲的に発表する児童が増え、嬉しそうに聞いたり、それをハートを書き足したりする児童もいた。

児童の振り返り（掲示物より）

↓↓
本時の掲示
全員カード掲示



↓↓
継続しての指導後掲示
個人カード掲示



指導内容（指導者・狭山市立狭山台小学校 結城先生）

- ・道徳教育は環境づくりが大切。
 - 1年2組の学級経営が温かい。・授業形態が良い。
 - どうしても価値が落ちない子がいてもよい。その後フォローしていくことが大切。
 - 柏原小の取組も継続してほしい。
- ・資料について
 - 大阪弁を標準語に直したり、文を切ったりしていた。研究したうえで挑戦することもあってよい。
 - 資料からはなす方法として、「これであいちゃんの話はおしまい！」と切る方法がある。
- ・板書について
 - 「議論する道徳」をするためには、議論を途切れさせたくない。発言を1こずつ板書するのではなく、まとめて端的に書く。教師は意見の交通整理をした方がよい。
- ★授業の流れ
 - ・導入について
 - シンプルに入っていたが、少しサラッとしていた。もう少し丁寧になると、あいちゃんに感情移入することができるのではないか。
 - ・切り返しの発問
 - 悲しいに終始していた。「いやだなあ以外に言える人？」と聞いたり、理由を問うたりする方法もある。多面的な考えにつながる。
 - ・役割演技について
 - 動きが同じ役割演技だったので、動きが違うものがあったてもよい。
 - ・終末について
 - 個性の伸長を扱う授業では、気持ちよく終わる授業も大切。

3. 成果と課題

○いすや机の配置などロールプレイをしやすい形態を以降の授業でも、有効活用できた。

○授業の始めに「自分の良い所は・・・」と不安に思っていた児童や自己肯定感の低かった児童も含め、授業後も続けていいところを見つけて書こうとできた児童が多くいた。

▼友達のいいところを、すぐに思いつかない児童がいたので、日ごろからの友達との関わり合いを深め、担任は把握しておきたい。

▼3年生の個性の伸長と内容が重なるところが多くあり、系統的に1年生の内容にしては難易度が高かったので、検討していく必要がある。